

帷子地区懇談会での主な意見と回答

日 時 平成28年6月30日(木)午後7時~午後8時40分

場 所 帷子公民館

出席者 43人

市長による講演「住みごち一番・可児 かに暮らし情報発信元年」の後、質疑応答が行われました。

【質問】帷子地区内にある大学が来年には無くなると聞いていますが、その後の跡地はどうなりますか。

【回答】現在、他の大学の誘致に向けた取り組みを進めており、できるだけ早く皆さんに良い報告ができるよう努力します。

【質問】可児駅前拠点施設の整備が進められていますが、施設がオープンして軌道に乗った場合などに、帷子をはじめ市内の各地区にも同様の施設を整備していく可能性はありますか。

【回答】駅前拠点施設は、子育てなどの拠点として専門スタッフを配置し、ノウハウを蓄積することで、市内各地区の子育て関連施設などを応援する役割を担うことを目指して整備するものです。同じような施設を市内に複数整備するということは、土地の確保や財政的な面からも難しいため考えていません。

【意見】美濃金山城跡をはじめ、市内各地で城跡の整備などが進められています。こうした地域資源を充実させ、観光で活用することで地域の活性化が図られるものと思いますがいかがでしょうか。

【回答】ご意見のとおり、市内に残っている城跡を巡って楽しめるような仕組みづくりを始めたところです。また、市内のおいしい食べ物やお店なども併せてPRできるようにしていきたいと考えています。

【意見】帷子地区でも高齢化が進んでいますが、特に認知症に関しては早期発見が大切だと思います。そこで、健康診断の中で認知症を早期に発見できるような仕組みができないものでしょうか。

【回答】ご意見のとおり、認知症を早めに発見して介護予防などにつなげることは重要であり、今後も取り組んでいかなければならないと考えています。健康診断を通じて早期発見ができるかどうかは、専門的な判断が必要になりますので確認しておきます（ ）。なお、認知症になる主な原因は、自分という存在が社会から必要とされていないと感じたときに、そこから逃れようとする心の働きだとも言われています。認知症を予防するためにも、地域活動に参加しやすく、高齢者が活躍できるような仕組みづくりなどを地域でも進めていただくようお願いします。

後日確認した結果、認知症の診断は初期ほど難しく、高度な検査機器と熟練した技術を要する検査が必要であり、現段階では健康診断の中で認知症を早期発見することは大変難しい状況です。

市では今後、健康診断において認知症を検査できる効果的な方法などの情報を注視するとともに、現在実施している認知症予防を目的とした脳の健康教室をより多くの方にご利用いただけるよう見直し、継続していきます。また、簡易的な自己診断テストを掲載したチラシを健康診断や健康相談などの機会を通して配布するとともに、軽度認知症が心配される方には相談先をご紹介します。認知症を早期発見できるよう努めます。

【質問】帷子地区の団地では空き家が多い状況ですが、働く場が近くにあれば人も増え、若い人も移り住んでくれると思います。市として大きな企業を誘致するような考えは持っていますか。

【回答】これまでも企業誘致には力を入れており、働く場も増えて市全体としては人口が増えています。ただ、可児市では製造業が多いため、働く場はあっても、特に若い人が希望する職種と合っているかどうかといった点が問題となります。また、帷子地区のように高齢化が進んでいることが、若い人が移り住む場所を考える際にマイナスイメージとして捉えられがちです。若い人を呼び込むためにも、高齢者が多いことで子どもの見守りを地域全体でできる、といったプラスイメージに転換していくことが必要です。地域ぐるみでのそうした取り組みを進めていただくことで、都市部とは異なる可児市ならではの魅力をPRしていきたいと思えます。